

長大病院でチャンス を掴みまくっています!!!

長崎大学病院を選んだ理由を教えてください。

熱研内科に行きたかったからです。高校時代から感染症に興味があり、いろいろな場所で口にしていたら、幸運にも北海道で長大病院の熱研内科のドクターと出会うことができました。その縁で、熱帯医学研究所がベトナムで展開している疫学調査にも同行させていただきました。

ベトナムへ!? 学生時代から熱研内科とつながっていたんですね。

そうなんです。ベトナムでの2週間は濃かったですね。向こうはデング熱が多いのですが、研究では気候や生活環境、生息する蚊の種類など、あらゆるデータを調べて、それ以外の感染症の可能性も洗い出します。とても勉強になりました。そして世界中の感染症の現場に立ちたい。「疫学調査をしたい」との思いが強くなり、長大病院熱研内科及び熱帯医学研究所は、今まさに目指す方向性だと感じたんです。



←熱研内科の共同研究所が入っているベトナムのハノイ、「The National Institute of Hygiene and Epidemiology」。

なるほど!!! 話は変わりますが、増田先生はトライアングルコース(※1)を選んでいますがどうしてですか?

ファーストタッチでの判断力を身につけたいと考えたからです。お話したように、僕は将来、疫学調査に携わりたいのですが、それには臨床の経験も非常に大事だと思っています。それに加え、僕自身、救命救急を経験したい。一見異なる3つの希望を満たして、納得できる形を考えたら、長大病院と外の2病院以上で研修できるトライアングルコースでした。

ただ、ファーストタッチを経験するという点では長大病院の外来研修(※2)は非常に魅力的です。実践に勝る練習はないですから。僕はこの1カ月で4回行かせてもらいました。

かなり濃い1カ月だったんですね!

最初の外来研修ではおぼつかなかったけれど、4回目はできることが増えました。毎日、自分の至らないこと、勉強しなければならないことが見つかり、時間が足りないと感じ



←メンターの先輩医師とガッチリ握手している増田先生。



増田 真吾 先生

北海道出身。北海道大学卒業。「念願の軍艦島に行ってきました」とプライベートも充実のご様子です♪

ます。ずっと、病院に泊まっていたくらいです(笑)。でも、翌日のために、しっかりと睡眠を取るようになっています。

充実していますね。今、一番やりがいがあることは何ですか?

学会準備ですね。ローテーション中の検査部で「学会で発表する?」と声をかけていただいたんです。「ぜひ!!!」と答えました。業務の合間に資料集めや準備をしています。また、昨日メンター(※3)と食事をして、学内の国際的に活躍しているドクターを紹介してもらえることになりました。出会いあり、経験できる機会も豊富で、長大病院はチャンスを掴めるいい環境だと思います。

そう言っただけだと、私たちも嬉しいです。ぜひ、たくさんチャンスをお掴みください!!!

WORD説明

(※1) **トライアングルコース**
長大病院と16の協力病院から2病院以上を選んで2年間で回る研修プログラムです。

(※2) **外来研修**
センター専任指導医とともに地域病院に行き、研修医が外来診療をします。現在、長大病院では、済生会長崎病院、長崎記念病院、島原病院、北松中央病院、上五島病院の5病院で外来研修を行っています。

(※3) **メンター**
仕事やキャリア形成において手本となり、助言や指導してくれる先輩医師。

(※4) **ローテーションの変更**
ローテーションは長大病院への入職前に決定しますが、研修中でも1カ月前であれば変更することが可能です。多くの研修医が変更しています。

(※5) **英会話教室**
毎週火曜日の診療業務が終わった夜に、研修医を対象とした無料英会話教室を開催しています。ネイティブスピーカーによる教室は大変人気です。

感染症を学ぶ上で 他にはない魅力的な環境です



菅野 恵也 先生

岩手県出身、岩手医科大学卒業。長崎でのカルチャーショックは日の長さ。「長崎は昼間が長いですね」と驚きの表情！

長崎大学病院を選んだ理由を教えてください。

学生の頃から、感染症に興味があったのですが、僕が育った岩手県には専門医は少なく、認定病院もありません。その点、長崎には感染症の専門医も指導医も多く、恵まれた環境だと聞き見学に来ました。実際に熱研内科を見て、いろいろな大学や研究機関から人が集まっているのを目の当たりにしました。活気にあふれていて、開かれた空間

だと魅力的に感じたんです。

また、長崎に惹かれたもうひとつの理由は、町の雰囲気です。町全体の温かさと、文化の深さを感じて「住んでみたい」と思いました。

ぜひ長崎の暮らしも楽しんでください。研修の日々はどうですか？

今は腎臓内科を回っています。実際、自分で思ったようには進まないのが現状で、毎日必死ですね。2カ月って思っている以上に早いです。

ところで、次のローテーションは、当初予定していた診療科から検査部に変えました(※4)。腎臓内科を回っている間にデータを見ることの大事さを感じたんです。例えば、血液培養の検査をオーダーしたとしても、どのように検査が行われているかは、見ることはできません。規模が大きい病院だと一層見る機会は少なくなります。しかし、検査データを理解し、解析できないと患者さんへの助言もしっかりとできないと感じたんです。

検査部でデータの出し方、見方をじっくりと勉強するつもりです。

変更できて良かったですね!!!

また、先日は外来研修に行きました。長大病院での診療と違い、短い時間で患者さんの声を聞き、判断して、伝えることが求められ、とても勉強になりました。それと、地域が違くと患者さんの雰囲気や疾患、施される医療も違うことを知りました。いろいろな病院で診療することで、学ぶ機会が広がりますね。

長大病院のシステムをしっかりと活用いただいている様子。もっと使って充実した2年間にしてくださいね!



→外来研修ではバラエティに富んだ症例を経験できます。骨折をモニターで見ている様子。

←上五島病院への外来研修にはヘリコプターで行きます。飛行時間はわずか25分ですが、その間に長崎港や五島の島々など長崎らしい風景を見ることができます。



熱心な指導医と研修に打ち込める環境、長大病院に間違いなし!!!

長崎大学病院を選んだ理由を教えてください。

魅力的な先生方がいらっしゃるからです。僕が通っていた富山大学に現在、長大病院病態病理学教授の福岡順也先生と第二内科の田代将人先生が在籍しておられました。おふたりともカリスマ的で、熱血な人柄と話の面白さに魅せられました。

実際に長大病院を選んで間違いなかったなと思います。他の病院に行くより絶対楽しい。一番感じることは教育熱心な指導医が多いこと！サマリーに関して細やかなチェックをくださいます。自由に動ける時

間もあるし、僕の考え方を尊重してくださいつつ、道筋を指し示してください。また、他大学出身の先生が多く、派閥がないのもいいですね。

他大学出身の先生にも居心地の良い指導体制も整っているんですね。

そうですね。教育体制という意味では医療教育開発センターの体制も整っています。センター専任指導医が熱心だし、事務作業を補助してくれるコンシェルジュもいて、研修に集中できる環境が保たれています。

また、市中病院ではなく大学病院を選んだ理由は、医学生が回る教育機関が自分に合っていると思ったから。後輩からの質問に分かる内容ならば答えますが、分からない場合は疑問を共有することができる。僕にとっても成長になります。

それは大学病院ならではのですね。



唐田 博貴 先生

埼玉県出身、富山大学卒業。常に道なき道を進んできた個性派の先生です。「富山大学の後輩には『長大病院において』と誘っていますよ」とありがたいお言葉。

ところで、唐田先生は今後のキャリア作りをどう展望していますか？

海外で医療に携わりたいと思っています。留学かそれ以外の方法も模索するつもりです。長大病院では研修医のための英会話教室(※5)が行われています。また、専属指導医に留学経験のある古賀智裕先生がいらっしゃいます。勉強をしながら、僕なりの道を探りたいですね。

自分だけの道を探すマイノリティさ唐田先生らしいですね♪



←英会話教室講師の伊原先生、同僚の研修医と一緒に。実は唐田先生、唯一の英会話教室皆勤賞です！